

# 光市高潮ハザードマップ 東部版

令和4年5月、山口県は水防法に基づき、想定し得る最大規模の高潮が発生した場合に想定される「高潮浸水想定区域」を指定しました。県が公表した「高潮浸水想定区域図」に基づき、高潮における水害リスクと水害時の避難に関する情報を住民等に提供し、主に、水害時の住民避難に活用していただくため、高潮ハザードマップを作成しました。

※想定を超える規模の台風による高潮の発生などにより、浸水想定区域以外でも浸水したり、浸水深が深くなる場合があります。

令和5年3月発行 光市総務部防災危機管理課 電話(0833)72-1403

## ハザードマップの使い方 確認したらチェックをしましょう!

- 自宅の位置や避難場所の確認**  
ハザードマップ上で、自宅などの位置を確認しましょう。
- 危険となる場所の確認**  
避難の必要がある場合、避難先までの経路で橋や水路、崖など、台風に伴う大雨などで危険になる場所を確認しておきましょう。  
※ハザードマップ上の自宅などが危険でなくても、色が塗られていなくてもいざという時に備え、避難先までに危険となる場所を確認しましょう。
- 避難経路の設定**  
②で確認した危険箇所を避けて避難経路を設定しましょう。
- 避難経路の安全確認**  
家族や地域で話し合いながら、設定した避難経路を実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な箇所が見つかったときは、経路を見直しましょう。  
※安全な避難経路が設定できないとき、避難先が遠いときは台風接近前の安全なうちに避難することを考えましょう。
- 非常持出品の準備**  
家族構成に合わせた必要な物資を確認し、袋に入れていつでも持ち出せるようにしましょう。
- 「マイ・タイムライン」の記入**  
台風接近時に何をすべきか、いつ避難するかなどを家族で確認し、「マイ・タイムライン」を作成しましょう。また、緊急時の連絡先や連絡方法、避難場所を記入しておきましょう。

# 高潮について知っておこう

**高潮発生メカニズムと潮位**  
台風や発達した低気圧が通過する際、海面が大きく上昇することを高潮といい、「①気圧低下による海面の吸い上げ」と、「②風による吹き寄せ」が原因となります。

**①気圧低下による海面の吸い上げ**  
台風の中心気圧は周辺部より低いので、中心部の大気は海面を吸い上げるように作用し、水面が上昇します。

**②風による吹き寄せ**  
強い風が吹く方向に向けて吹き続けると、風下の海岸に海水を吹き寄せます。このため、海面が異常に上昇します。

**高潮被害が発生しやすい条件**  
高潮は、**台風の進路や潮位、周辺の地形**などによって影響を受けます。

- 台風の進路**  
台風は、進行方向の右側で風が強くなります。また、周防灘では、関門海峡が非常に狭くなっているため、強い東寄りの風によって吹き寄せられる海水が玄界灘に流出する量より大きくなると高潮が発生しやすい特徴があります。
- 台風接近時の潮位**  
潮位の高い満潮時刻の前後数時間に台風が接近すると、高潮発生危険性が高くなります。特に、大潮(満月や新月)のときは、満潮時の潮位が高いため、より被害が発生しやすくなります。
- 周辺の地形**  
高潮による海面上昇は、海底地形や海岸形状により大きく異なります。次のようなところでは、特に高潮に対する注意が必要です。  
  - 周辺より低い土地
  - 急に深くなる海底地形
  - 河口のまわり

## 過去の災害記録

山口県南方の周防灘は瀬戸内海で最も広い海域で、その沿岸は入り江や湾形が多い南向き海岸であるため、高潮の影響を受けやすくなっています。

**●平成3年 台風第19号**  
大型で非常に強い勢力を維持した台風第19号は、光市に戦後最大級の被害をもたらしました。最大瞬間風速42m/sの強い風と、高潮が重なり大きな高潮となりました。光井川河口沿岸部では防波堤が決壊し、大量の海水が流れ込みました。  
浸水の勢いはかなり速く「寝ている布団ごと雲が浮いてびしょりした」というお年寄りもいました。  
光市では床上浸水142戸、床下浸水49戸の被害が発生し、塩害による10時間以上の停電、断水が起きました。(瀬戸内タイムス1991年10月1日版より)

平成3年の台風第19号による光井地区の被災写真 (平成3年9月27日)

**●平成11年 台風第18号**  
中型で強い勢力を維持した台風第18号は、大潮満潮時に山口県宇部市付近に上陸したため周防灘沿岸における記録的な高潮となりました。沿岸部では、高潮・高波による浸水、家屋被害が頻発し、高潮の影響による河川氾濫も各所で発生、県内各地に甚大な被害が発生しました。光市では、高潮が防波堤を乗り越え、床上浸水20戸、床下浸水206戸という被害が発生しました。(瀬戸内タイムス1999年9月27日版より)

平成11年の台風第18号による紅ヶ浜地区の被災写真 (平成11年9月24日)

## 高潮災害をもたらした主な台風

年	年月日	最低気圧 (hPa)	最大瞬間風速 (m/s)
①	平成3年 台風第19号	947.0	45.3
	平成11年 台風第18号	962.6	41.9

下関地方気象台での観測記録

# 積極的に情報をあつめよう

**光市から発信する防災情報**  
光市では、広報車の巡回のほか、様々な方法で防災情報を発信しています。

**防災行政無線**  
防災情報等を一斉にお知らせするための放送設備で、無線装置を使って市内各地に設置された屋外拡声機からサイレンや音声を送ります。  
**防災行政無線のアナウンスが聞き取りにくい場合には**  
**防災広報ダイヤル (0833)72-1410**  
 防災行政無線の放送内容を音声で確認することができます。  
**防災情報電話通知サービス**  
 防災行政無線で放送した避難情報や避難所の開設情報などを、固定電話やFAXで受け取ることができます。  
**メール配信サービス**  
 hikari@xpressmail.jp  
**光市LINE公式アカウント**  
 令和4年10月からスマホアプリ「LINE」を活用し、避難所の開設情報や避難情報などメール配信サービスと同様の内容を配信しています。

**インターネットから取得**

- 光市役所のホームページ
- 山口県のホームページ
- 気象庁の情報
- 下関地方気象台

**報道機関から取得**

- テレビ
- ラジオ
- 電話で確認

# マイ・タイムラインをつくろう

自宅やよく行く場所の災害リスクは? 家族の状況をチェック 家族の連絡先などを書き込んでおきましょう!

氏名	緊急時の連絡先・連絡方法	避難場所	氏名	緊急時の連絡先・連絡方法	避難場所

**警戒レベル4までに必ず避難**

気象状況	台風発生・接近 (早期注意情報の発表)	→ 台風接近の1日前	→ 暴風域に入る数時間前 ※急に猛烈な雨や風になることも	→ 命の危険を感じるような風や大雨
警戒レベル	警戒レベル1 早期注意情報(警報級の可能性) (気象庁が発表) 今後気象状況悪化のおそれ	警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表) 気象状況悪化	警戒レベル3 高齢者等避難 (光市が発令) 災害のおそれあり	警戒レベル4 避難指示 (光市が発令) 災害のおそれ高い
警戒レベル相当情報	氾濫注意情報		高潮注意報*1 氾濫警戒情報・洪水警報 大雨警報(土砂災害)	高潮警報・高潮特別警報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
住民がとるべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認する	危険な場所から高齢者等は避難*2	危険な場所から全員避難
備えの例	テレビ・ラジオの天気予報に注意する マイ・タイムラインを確認 家族の予定を再確認 屋外の安全確認 避難時の持ち物の準備	ハザードマップなどで避難行動を確認 安否確認方法の確認 台風接近と満潮時間の確認 河川の情報に注意 危険地域に住む家族・知人へ連絡 携帯電話を充電	避難開始 避難を開始する方は、危険な場所から避難	避難開始 危険な場所から全員避難
わたしの行動	「備えの例」を参考にあなたに必要な項目を書き出してみよう! ①該当するものを記載 ②他に必要なものがあれば記載			

※1 高潮警報に切り替える可能性に及ぶ高潮注意報。 ※2 高齢者等以外の人も、必要に応じ、普段の行動を見合せて自主的に避難してください。 ※3 市が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5「緊急安全確保」は必ず発令されるものではありません。 ※4 水位周知海岸において山口県知事から発表される情報。

**マイ・タイムラインの注意事項**  
災害は、マイ・タイムラインどおりに起こるとは限りません。また、気象情報、避難情報等は実際の気象や河川の状況に応じて発表されるため、マイ・タイムライン上の時間と一致しないことがあります。実際の災害の際にマイ・タイムラインを使用する場合は、次の注意点を踏まえて行動するようにしましょう。

- あくまで行動の目安として認識する。
- 気象情報や避難情報等をこまめに収集・確認する。
- 収集・確認した情報をもとに、マイ・タイムラインを参考にして、臨機応変に行動する。

**安否確認方法(災害用伝言サービス)**  
●災害用伝言ダイヤル171: 災害時にNTTから提供される「声の伝言板」です。

伝言を録音する	局番なしで171をダイヤルする	伝言を入れる(30秒以内)
1. 録音する	1. 「1」を選択	1. 被災した家の電話番号を市外局番からプッシュ
2. 再生する	2. 「2」を選択	2. 伝言を聞く

※災害用伝言ダイヤル171にはWeb版もあります。その他、各携帯電話会社が災害時に「災害用伝言板」のサービスを提供しています。

# あなたがとるべき避難行動は?

**避難行動**  
「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅等の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

<p><b>自宅等に災害の危険がある場合</b></p> <p><b>原則 立退き避難</b></p> <p><b>自宅等から安全な場所へ移動(水平避難)</b> 【避難先】 ○市が指定している避難所 ○安全な親戚宅、知人宅、ホテル等</p>	<p><b>自宅等で安全が確保できる場合</b></p> <p><b>屋内安全確保</b></p> <p><b>自宅等の安全な上階へ移動(垂直避難)又は安全な上層階に留まる(待避)</b></p>
<p><b>立退き避難する時間がない場合</b> ※浸水がはじまる、暴風雨で外にでることが危険な場合など、すでに災害が発生又は差し迫っている場合</p> <p><b>緊急安全確保</b></p> <p><b>直ちに、今いる場所より少しでも安全な場所へ移動</b> 【移動先】 ○自宅等の少しでも浸水しにくい高い場所 ○自宅等の崖から離れた部屋 ○近隣の相対的に高く堅牢な建物</p>	<p>雨が降り出してからの避難は時間がかかります。また、暗くなってからの避難は危険です。少しでも身の危険を感じたら、早めに安全な場所に避難しましょう。</p> <p><b>緊急安全確保</b>は、立退き避難を行う必要がある人が、安全な避難ができなくなってしまった場合に、できるだけ命の危険から身の安全を守る行動です。</p>

**避難のポイント**

- 避難する前に確認を**  
・火元を点検しましょう。  
・電気のブレーカーを切りましょう。
- 避難の呼びかけに注意**  
・危険が迫ったときには、避難の呼びかけがあります。  
速やかに避難しましょう。
- 避難するときは、近所に声をかけて**  
・避難するときは、近所に声をかけ、みんなで避難しましょう。  
・一人暮らしの高齢者や障がいのある方など、避難に時間や助けが必要な方にはみんなで協力して避難の援助をしましょう。
- 動きやすい服装、複数人で避難を**  
・避難するときは、スニーカー等動きやすい格好で避難しましょう。  
・2人以上での行動を心がけましょう。
- 足元に注意**  
・水面下では、側溝に気づかないことがあります。  
長い棒などで、安全確認をしながら避難しましょう。  
※危険を感じたら安全な場所で待機
- 車での移動は控えましょう**  
・浸水しているところでは、車が水に浸かり動かなくなる(マフラーやエンジンルームに水が入り故障する)ことがあります。

# 日頃から風水害に備えよう

**地域の自主防災組織の活動への参加**  
自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という、地域住民の連携により結成される防災組織のことです。  
災害発生時にお互いの身を守るため、日頃から自主防災組織の防災訓練などの防災活動に参加しましょう。

**家屋の風水害対策**

- 屋根: 瓦のひび・ずれなどはないか。トタンをめくれはがれはないか。
- 雨どい・雨戸: 雨どいには落ち葉や土砂が詰まっていないか。積り目はずりや塗装のはがれ、腐りははないか。雨戸にガタつきやゆがみはないか。
- 窓ガラス: ひび割れ、窓枠のガタつきはないか。トタンのめくれはがれはないか。
- ベランダ: 鉢植えや物干しなどお断りの危険性が高いものは室内へ。
- ブロック塀: ひび割れや破損箇所はないか。
- 外壁: 外壁に亀裂はないか。板壁の場合、腐りや浮きははないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。
- 側溝: 目詰まりしていないか。雨水が速やかに排出されるか。

**非常持出品の準備**  
家族構成に合わせた必要最低限の物資をリュックサックなどの非常持出袋に入れて、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。  
※準備したものに☑チェックを付けましょう。